

進路情報 令和3年9月1日発行(2)

「経済的な理由で進学をあきらめない」
～高校育英貸与奨学金のご案内～

文部科学省(子どもの学習費調査)や日本政策金融公庫(教育費負担の実態調査)によると、幼稚園から大学まで、すべて公立校に進んだ場合でも、入学金、授業料、制服、教科書、給食費等の「学習費総額」と呼ばれるものに加え、学習塾や予備校、家庭教師、習い事等の「学校外活動費」を合計すると、一人当たりの教育費は1000万円を超えるという結果が出ています。ちなみに、中学校まで公立に通い、高校と大学を私立に進学した場合は、1500万円前後。幼稚園から大学まですべて私立に進学した場合は2500万円前後になるそうです。あまりにも大きな金額で、もしかすると生徒の皆さんにはピンとこない数字なのかもしれませんが、兄弟姉妹がいて、入学や進学タイミングが重なったりすると、保護者の負担は本当に大きなものになります。

経済的な理由で進学をあきらめ、早く仕事に就いて家計を支える事は、ひと昔前まで珍しいことではありませんでした。

しかし今日では、進学して勉強したい人を支援するさまざまな制度が準備されています。ぜひ、知って頂き、可能性を拓いていく道筋に大いにお役立て下さい。

沖縄県の教育支援制度の一覧表を裏面に掲載致しました。(県教育庁のホームページでも確認できます。)その中で、「授業料以外の教育費負担軽減制度」における奨学金(貸与型)：高校育英貸与奨学金についてご案内します。

「奨学金(貸与型)高校育英貸与奨学金」は、中学校3年時中に「予約」をすることができます。下記の募集条件をご覧になり、高校で奨学金貸与をご希望の方は、担任にお申し出下さい。募集要項と提出願書が中学校に届いておりますので、希望者(数に限りがあるため)にお渡したいと思えます。(先着順ではありません。希望者多数の場合は取り寄せします。)なお、中学で予約をしていなくても、高校入学後に申請することもできるということをご承知おき下さい。

令和4年度高校育英貸与奨学金(予約採用)について ※3年生を対象とするご案内です

○高校育英貸与奨学金とは

令和4年4月に高等学校、専修学校高等課程等に進学を希望する中学校3年生のうち、学業・人物ともに優れ、経済的理由により修学が困難な生徒を対象に、無利息で奨学金を貸与する制度です。

○募集条件

- ・父または母が、沖縄県内に住所を有していること。・家計(収入)にも基準があります。詳しくは募集要項をご覧ください。
- ・中学校1・2年の成績平均値が3.0以上であること。※2.7～2.9の生徒であっても、条件によって申し込みできる場合があるのでご相談ください。

○借りられる金額および期間

自宅から通学の場合、月額¥18000(国公立)、¥30000(私立)、自宅外通学の場合¥23000(国公立)、¥35000(私立)が卒業するまで貸与されます。

○返還について

貸与終了後6ヶ月経過後から返還が始まります。進学した時や、病気・災害・失職等で返還が困難な場合は、願い出により返還が猶予される制度もあります。

○書類提出の校内〆切は、9月27日(月)まで

お預かりした書類を点検し、校長印を添えて、財団の方まで提出に出向きます。なるべく早めの提出が助かります。

予約願書に加えて、令和3年度の市町村県民所得課税証明書が必要です。

高卒50.4% 大卒41.2% (沖縄県)

この数字は、平成28年度に高校や大学を卒業した人の「離職状況」です。(令和元年

12月沖縄県労働局発表) 3年続かずに会社をやめた人の割合が、高卒者で50.4%、大卒者で41.2%となっているそうです。大学を出て、社会人として新たなスタートをきった人のうち2.5人に1人が3年以内に辞めている計算です。どんな理由で辞めているのかというと、「仕事が自分に合わなかった」「人間関係がよくなかった」「労働条件がよくなかった」が多くの理由だそうです。いま世の中は、新型コロナウイルスによって、続けたい仕事も奪われてしまうことが起きているとてもきびしい状況です。不安を抱えた中で、将来について考えることに難しさもありますが、「将来、いきいきと誇りをもって生きていくために」高校(社会)でどんな力を身につけるのか、自分自身でよく考えて、保護者ともよく話し合い、しっかり責任の持てる決断をしていくことが大切だと思います。あと数ヶ月たてば、人生という大海原へ一歩踏み出す皆さん。進学か就職か、または他の選択肢か…。踏み出すための力を身につけながら、少し先を見据えた準備を進めていきましょう。